

ダイコンのべたがけによる台風対策

地球温暖化により露地野菜への台風リスクが今後一層高まるとされ、対策が求められています。そこで、べたがけによるダイコンの台風対策を紹介します。

※べたがけ：畝や作物に接するよう直接資材で覆い、外部の環境から作物を守る



べたがけしたダイコン圃場

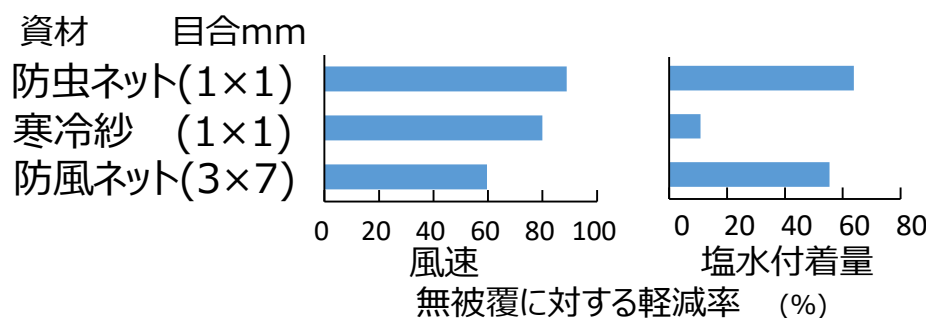
べたがけによる風害・潮風害の軽減効果と適する資材

強風で茎葉があおられ損傷、潮風の塩分による濃度障害



べたがけにより強風・潮風をやわらげ、作物を固定することで被害を軽減

☞ 資材は風速・塩水付着の抑制効果が高い **1mm目合の防虫ネット**が適する



無被覆

風害・潮風害処理後の生育



防虫ネット

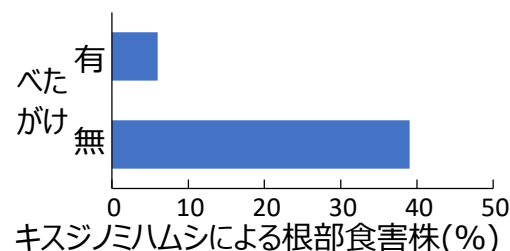
高温期はべたがけで台風・虫害の同時対策

8月播種のダイコンは高温下で生育するためキスジノミハムシ等害虫の活動が活発・食害リスク高



キスジノミハムシ
左：成虫
(体長3mm程度)
右：幼虫による食害

☞ 小さなキスジノミハムシ成虫も侵入しにくい目の細かな**0.6mm目合の防虫ネット**を播種時べたがけ→台風対策を兼ねて食害軽減



低温期はべたがけで台風被害後の生育回復

9月下旬播種のダイコンは収穫期が低温となるため、台風被害で収穫遅れのリスク大

☞ 不織布の早期べたがけ（11月下旬、通常12月中旬以降）で保温→生育促進



べたがけ無



べたがけ有

